

[平成 22 年 6 月 14 日総務財政委員会—06 月 14 日-01 号]

◆芝田 委員 公明党の芝田でございます。きょうは限られた時間でありますので、早速進めたいと思います。

この間の大綱質疑では、行政評価について当局と議論、また市長にも答弁をいただいたわけではありますが、我が党は以前より行政評価を重視するということで、外部評価の視点も交え、そしてまた精度の高い行政評価を進めていただくよう以前より要望していたわけでありますけれども、この間の大綱では議論のかみ合いもなく、私としては、行政評価の達成度はどのあたりなのかということ率直にお聞きしたわけでありますけれども、それに見合う答えがなかったというふうに思っておりますので、引き続き当委員会で質問をさせていただきます。

答弁の中で、平成 18 年度に全事務事業を見直しして、そして総点検をし、それが翌年の平成 19 年度に予算に反映されたというような答弁でありましたけれども、この辺を少し詳しく説明をお願いしたいと思います。

◎田中 行政評価担当課長 平成 18 年度の事務事業評価の平成 19 年度への反映状況についてということでございますけれども、平成 18 年度は次年度の予算編成の前倒し作業として、その編成の過程の中で効率性や有効性の観点から、1, 232 の既存の事務事業の総点検を行いました。そして、その結果をもとに改善・改革案を検討いたしまして、検討した結果を予算に反映することを通じて、施策事業の再編、再構築の取り組みを行いました。

その結果でございますけれども、平成 19 年度予算におきまして、見直しとして廃止・休止 47 事業、縮小 8 事業、改善・効率化 274 事業、計 329 事業及び拡充として 11 事業について反映をいたしました。以上です。

◆芝田 委員 それでは、19 年度以降の事務事業評価について、どのようにされて、またどのように反映されているか、お聞きいたします。

◎田中 行政評価担当課長 平成 19 年度以降の事務事業評価の結果の反映でございますけれども、平成 19 年度は既存事業を対象に妥当性、有効性、効率性の観点で施策事業の評価を実施いたしました。平成 18 年度、19 年度の 2 カ年の取り組みによりまして、全庁的にいわゆる PDCA サイクルも浸透してきたということから、平成 20 年度当初予算編成から新規事業等を除き、各局への枠配分を導入し、各局において取り組んでいるところでございます。以上です。

◆芝田 委員 つまり、各局へこういう事務事業の評価、また予算等に反映するそういうことをシフトしたというふうなことでありますけれども、それでは、その各局で行っている評価結果についての把握は、担当部局は把握されておりますか。

◎田中 行政評価担当課長 各局で実施しております評価結果についての取りまとめは

行っておりませんが、毎年度、行財政改革の取り組み実績として経営監理室に調書の提出をお願いして取りまとめております。以上です。

◆芝田 委員 それでは、本市における現時点での行政評価の課題について、お示しいただきたいと思っております。

◎田中 行政評価担当課長 行政評価につきまして、より効果的なものとするためには、政策体系におけます事業の位置づけを整理いたしまして、行政の仕事をよりわかりやすく示すこと、また市民とともに改革を進める自治体経営への転換を図るためにも、行政内部の評価に加えまして、外部の視点を取り入れることなど、より客観性、透明性を確保していくことが必要と考えております。以上です。

◆芝田 委員 御答弁の中で、行政内部の評価に加え、外部の視点を取り入れることということをおっしゃっておりますが、先ほども冒頭述べましたように、以前より外部の視点、外部評価のそういう仕組みが必要であるということ、そういうような要望をしてきたわけでありまして、それについての見解をお示しください。また、やられたことについてお示しください。

◎田中 行政評価担当課長 外部評価等の取り入れの検討でございますけれども、行政評価につきましては、時代の変化など、行財政運営におけます環境の変化に的確に対応したのとなっているか、組織の中で有効に機能しているかなど、不断に検証を行いつつ、行財政改革の有効なツールとして継続的に改善を図っていく必要があると考えていたところでございます。

そうしたことから、先ほど答弁した課題を踏まえまして、そういった外部評価的なものを取り入れる1つのやり方といたしまして、今年度、堺版事業仕分け、みんなの審査会をこれを実施いたします。これは、これまでの事務事業評価に事業仕分けの手法を用いて外部の視点を取り入れるとともに、行政の仕事をわかりやすく示しまして、説明責任の徹底と市政参加の促進を図るものでございます。以上です。

◆芝田 委員 私は、その外部の視点をどのように取り組んできたかということもお聞きしたわけでありまして、前回から外部の視点と市長のマニフェストに書かれているこの堺版事業仕分けがずっと横から来るわけですね。

外部の視点を入れるというのは、どの市も今進めて、いわゆる1つのツールとして事業仕分けがあるわけですが、私がここを強く言うのは、やはり以前から申し上げたことがなかなかそれができてなかったらできてなかったと、やはりしっかり反省をしていただかなければ、やはり皆様方のお仕事が前に進まない。いわゆるPDCAにしても、しっかり検証するということが大事なわけでありまして、結論から言うと申しわけないですが、堺版事業仕分けをして事足りるということでは私は納得しないし、また入れるのであれば、しっかり過去のことも検証して進めていただかなければ、市長が言われたことがやはり私は中途半端な形として進んでいくかなというふうに思っております。

それでは、堺版事業仕分けのいわゆるみんなの審査会というネーミングでありますけれ

ども、この特徴についてお伺いたします。

◎田中 行政評価担当課長 みんなの審査会の特徴としては、大きく2点ございます。

1点目は、我々この基礎自治体を実施いたします事業は市民サービスに直結するものであることから、その要、不要だけでなく、改善策、充実・強化策についても御議論していただく点でございます。具体的な手法を含めまして、よりきめ細かく議論を行うために、1事業当たり90分を予定してございます。

2点目は、市民の方により市役所の仕事を身近に感じていただき、市政への参加を促進するために、市民に審査員になっていただき審査会に加わっていただくということでございます。以上です。

◆芝田 委員 具体的には、先ほど栗駒委員のところでもありましたけど、事業は何事業ぐらいされる予定でしょうか。

◎田中 行政評価担当課長 対象事業でございますけれども、現在、絞り込みの作業中でございます。最終的には32事業に絞り込みたいと考えております。以上です。

◆芝田 委員 今回のこのみんなの審査会は、予算的には600万円と聞いております。そしてまた、コンサル等に委託してるということではありますが、この辺の詳細ですね。皆様方が我々に示していただきましたこういったこと、最初に1回来て、これは2回目なんですけれども、この辺の重要な部分が当局がどこまでタッチされたのか、その辺をお示し願いたいと思います。

◎田中 行政評価担当課長 さきに議会のほうにお示しさせてもらっております堺版事業仕分けについての概要でございますけれども、これにつきましては、いわゆるコンサル等のお力をかりることなく、市のほうですべて策定しております。なお、行革の専門委員さんの意見はもちろんちょうだいしております。以上です。

◆芝田 委員 それでは、みんなの審査会における市民審査員、特に堺版事業仕分けでは、他の市と違ったこの市民審査員が大きなウエートを占めていると思いますが、その役割についてお伺いたします。

◎田中 行政評価担当課長 市民審査員の役割でございますけれども、専門的な知見等を持ちました検討委員と行政の職員間との議論を行う場に参加していただきまして、議論の内容等を踏まえていただいて、後に各事業の方向性について率直な意見を言うていただくというものでございます。以上です。

◆芝田 委員 そして、市民がこの審査会に参加される前に1日の研修等をされることと聞いておりますが、抽出された一般の市民の方に難しい、特に市民の視点を入れるという事業を選択されるというのは聞いておりますけれども、果たしてそれで十分理解して審査、評価をしていただけるのか、その辺が疑問が残るわけなんですけれども、それについての見解をお示しいただきたいと思います。

◎田中 行政評価担当課長 みんなの審査会の事前研修でございますけれども、これにつきましては、みんなの審査会の意義、目的、市民審査員の役割、また堺市の財政状況や

対象事業の内容につきまして御説明申し上げますとともに、審査会当日にも事前に15分程度の事業概要の説明を行うなど、十分に御理解をいただけるよう努めてまいります。

また、これらの説明と申しますのは、市の事業を市民に理解いただくプレゼンテーションの場でもございますので、わかりやすく十分御理解をいただけるよう、関係部局とも連携して工夫しながら進めていきたいと思っております。以上です。

◆芝田 委員 ここから竹山市長に御答弁いただきたいと思っておりますが、みんなの審査会の市民審査員の評価を市長はどのように受けとめ、そしてまた、市民を代表する機関である議会との関係をどのように認識されているのか、御見解をお聞きいたします。

◎竹山 市長 堺版事業仕分けにつきましては、市民の皆さんの参加を得て、市の事業の要、不要だけではなく、改善策とか充実・強化策についても御意見いただきたいというふうに思っております。効果的、効率的な行財政運営をするために御意見をいただくというところで、行政評価の1つのツールとして利用したいというふうに思っております。

市民審査員の評価の結果につきましては、今後の事業のあり方につきましての生の貴重な御意見として受けとめまして、市として改善策等を検討してまいります。その改善策を検討するにあたりましては、市の最終決定機関でございます議会の議決が当然必要でございますので、その議論も踏まえまして、決定していきたいというふうに思っております。

◆芝田 委員 それでは、市長は見える化とか、また市民視点ということをよく言われます。それだけ市政は市民のものであるというような自覚があると思っておりますが、それでは、市民視点ということで市民参画による行政運営を推進していく中で、市民の関与についての御見解もお示しいただきたいと思っております。

◎竹山 市長 市民参加についての私の見解でございますけれど、おっしゃるとおり、市役所を市民の役に立つところにしたいというふうなことを常々申し上げております。そのためには、市民の皆さんが役所を身近に感じていただくということが必要であるというふうにも思います。身近に感じていただくためには、市民に対して意思形成過程も含めまして、情報をできるだけ公開していく、そして市民の参加を得て、その政策の参考にさせていただくということが必要であるというふうに思っております。さまざまな機会を通じまして、私自身も市民の方々と御議論させていただいたり、現場の職員と意見交換するような場を積極的に持っていきたいというふうに思っております。

事業仕分けの取り組みもまさにそういうものでございまして、市民の生の意見を聞きながら、行政としてそれを重く受けとめながら判断していく、そして、議会の皆様方と真摯な議論をしながら決定していきたいというふうに思っております。

◆芝田 委員 ありがとうございます。みんなの審査会についての市としては初めての取り組みでありますし、また市民が20名、そういう事業の仕分けに参加される方がおられるということで、最終的にはそこで審査、評価をしていただくわけでありまして、しっかりその結果をどのように反映していくか、またどう説明責任を果たしていくかということとは、今後当局の御努力に期待するわけでありまして、最後に、この事業仕分けも、

先ほど言いましたように市長のマニフェストにある項目であります。長谷川委員のほうからも指摘がありましたように、民主党も政権をとって、いわゆるマニフェスト選挙が定着した中で、大きなうねりの中で政権交代した中で、今そのほころびというか、財源の裏打ちもなしに言ったことが如実にあらわれているということでもありますし、二、三日前も、子ども手当も満額の2万6,000円は大変厳しい、そういう発言が大臣からあり、また菅首相もそれに追随するような発言があったわけでもあります。

そういった意味では、やはりこの限られた財源の中で、そしてまた厳しいこういう状況の中で義務的経費も増大する中、また少子高齢社会の中で、いろいろお金を使っていかなくてはならない中で、いわゆるマニフェストにこだわり過ぎて、大きな船が航路を進む中でかじの切り方、また切るタイミングが遅くなれば、80万市民が路頭に迷うという言い方は悪いですが、やはりこの報いを受けるわけでもあります。

そういった意味で、市長に対して最後の質問でございますが、今のような話を踏まえまして、マニフェストに対しての現在の御見解をお示し願いたいと思います。

◎竹山 市長 昨年9月の選挙でお示しいたしました私の60項目のマニフェストにつきましては、先ほど長谷川委員からも御質問いただきましたように、私自身、大事にしていきたい。マニフェストでなく公約や言われてましたけれど、そうかもわかりませんが、それは大事にしていきたいというふうに思っております。

そして、至上主義ということに陥らないように、絶対的なものとしては私はとらえてませんでして、時代とか社会経済とかそのあたり、十分見定めなければならないというふうに思っています。また、その施策内容についても十分精査しながら、今年度末には一定進捗状況を皆様方にお示しするというので今進めていきたいというふうに思っております。

今後とも事業仕分けも含めまして、市民の御意見、そしてまた議会の御意見を承りながら、効果的、効率的な行財政運営をどうして進めていくかというふうな方向で鋭意努力していきたいというふうに思っております。

◆芝田 委員 見直し等も含めて、その辺の御見解はどうでしょうか。

◎竹山 市長 大事にすることは大事にしたいと思っておりますけれど、施策内容がこれはおかしいやないかと、加藤委員に御指摘いただきましたように、無料というのはおかしいやないかというふうなことを私自身、十分勉強不足であったという点も率直に振り返りながら、それをきちっと現実的なものとして、その施策を進めていくという方向性をきちっと保ちながら実施していきたい、守っていきたいというふうに思っています。

◆芝田 委員 マニフェストは大変数値目標、そして期限も決められてやるべきものでありまして、また今、選挙等でも、このマニフェスト、何をしてくれるんやと、何をしたいんやということがしっかりマニフェストで提示されなければ、有権者もその内容に意思表示をする機会がないわけでもありますので、このマニフェストをしっかりと重視することも大事でありますし、また時代変化に即応しながら進めていただきたいなというふうに思っております。

ある新聞では、いわゆるこの民主党のマニフェストにおきましても、やはり政権をとる前でありましたので、いわゆる政策体系として鍛えられていない、いわゆる独学型の個別政策群だというような評価がされて、まさにそれが政権をとった後に混迷をきわめているかなと思いますし、また、竹山市長もこういうマニフェストで当選されたというふうに思っておりますが、しっかり先ほども言いましたように現実を直視し、そしてまた市民のために最善の方策、また決定をしていただきたいことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。